

学ぶ意欲 引き出す 特色ある 教授法

P B Lで学生が「まちづくり」の研究



崇城大学

地域課題に挑む

崇城大学の内丸恵一講師が担当する、工学部建築学科三年生の科目「地域計画設計」では、学生たちが地域の中に入り調査を重ね、潜在的な魅力と問題を発見、その地域の魅力を引き出し問題を解決するPBL型（問題発見・解決型）授業を行う。アクティブ・ラーニングの形態をとり、テーマ設定やスケジュール、調査方法など全て学生自身で計画を進める。二〇一七年は、熊本県宇土市で子ども向け交流施設について子ども主体で運営する「放課後子ども育成システム」を提案した。発表会には市長も参加し、施設のハード面に加え、ソフト面までも考慮されている」と評価され、現在その実現に向けて進行中。実現すれば全国でも珍しい「まちづくり」の例となる。学生たちはテーマ設定から全て自分で計画進行することで、戸惑いながらも着実に成長しているようだ。